

第3回四国圏広域地方計画協議会 議事要旨

1. 日時

平成27年3月23日（月）13：30～15：05

2. 場所

かがわ国際会議場 高松シンボルタワー6階

3. 議事

- 1) 新たな国土形成計画（全国計画）中間とりまとめ（案）について
- 2) 新たな四国圏広域地方計画の骨子（案）について
- 3) その他

主な発言内容

1) 開会挨拶

常盤協議会会長、石井国土交通審議官よりあいさつ

2) 意見交換

議事1)、2)について国土交通省及び事務局から資料説明。その後、意見交換が行われた。各構成員等から出た主な意見は以下のとおり。

<徳島県>

- ・四国圏の主な課題は、骨子にあげられている「■安定した社会を支える・・・」「■自立的・持続的発展に向けた・・・」の2つで問題ないと思う。
- ・四国圏の課題である他地域との格差の一つの大きな要因は、インフラ整備の遅れである。
- ・新幹線のある地域とない地域を比べると経済格差が大きい。また、震災への備えとしても有効であることから、四国新幹線が必要であると考えている。
- ・また、道路ネットワーク整備の遅れも課題であり、地域の活力向上だけでなく、防災面でも必要性は高いと考えている。

<香川県>

- ・全国計画にある「対流」を実現するためにも、四国新幹線の整備は必要だと考える。

- ・北海道、本州、九州に新幹線があり、四国にだけ新幹線がないという状況。
- ・災害対応の面でも大きな力を発揮する新幹線であり、広域地方計画において何らかの形で四国新幹線に言及してほしい。

<愛媛県>

- ・四国にこそ「対流」が必要であり、人の移動に必要な鉄道の整備が四国では遅れている。
- ・資料の「四国の弱み」では、道路インフラの不足のみ示されているが、鉄道が高速化されていないことが四国の弱みである。
- ・道路のミッシングリンクの解消も大事だが、鉄道の高速化や四国新幹線についての言及が必要と考える。
- ・現計画では、フリーゲージトレインなどの具体の記載もあったが、新たな計画骨子では「鉄道の高速化」という言葉だけであり、鉄道に関する具体的な記載をしてほしい。

<高知県>

- ・災害に強い国土づくりを進めるため、ソフト・ハードの組み合わせが必要。
- ・地域の防災、減災対策を進めるにあたり、河川、海岸の震災対策はもとより、災害時には医療資源が絶対的に不足することが予想され、災害時の総合的な連携体制などが必要。
- ・災害への対策だけでなく、地域産業活性化においても、高速道路のミッシングリンクの解消は欠かせない視点であり、新幹線も重要な役割を果たす。
- ・交流人口の拡大による観光振興、産業振興に大きな期待が寄せられる。
- ・中山間の生活環境の整備として、若者の働く場の確保が必要。豊富な森林資源の活用で雇用の創出を図りたい。CLT(直交集成板)は資源の有効活用にもつながる。
- ・子供から高齢者が生き生きと暮らせるコミュニティの再構築という観点から、医療政策との連携、医師の確保などが必要。
- ・結婚、妊娠、出産などライフステージに応じた総合的な少子化対策が必要だと思う。

<愛媛県市町会>

- ・計画に対する意見は特にない。
- ・3月は議会や式典も多いため市町村会の欠席者が多く、今後は、開催時期について配慮願いたい。

<中国四国地方環境事務所>

- ・計画について特に意見はない。
- ・都市のコンパクト化は温室効果ガスの排出削減の観点からも望ましいものであるが、

骨子の具体化にあたって、こうした観点からも検討いただきたい。

- ・資料3 (P.11)「⑥豊かな暮らしを支える環境」とあるが、ここでの「環境」は英語で「サーカムスタンス (circumstance)」を意味していると思われ、「エンバイロメント (environment)」と勘違いされないよう、用語を整理しておいた方がよいのではないか。

<高松海上保安部>

- ・計画についての意見は特にない。

<高松地方気象台>

- ・自然災害への備えの記載、最新データへの差し替えなど、これまでの意見が反映されており、特に追加等の意見はない。
- ・今年2月6日の徳島県南部での地震について、心配された方も多いと思うが、その後の地震活動は低調に推移している。ただし、この程度の地震は日本のどの場所でも起こる可能性があるため、常日頃から地震への防災対策が必要である。
- ・気象台では関係機関と連携した防災知識の普及・啓発活動に取り組んでいるので、引き続き関係機関のご協力をお願いする。

<四国経済産業局>

- ・四国は山脈で分断され、自動車などの連携した組み立て産業が発展しにくく、ニッチトップで輝くことが生き残るためには必要となる。四国の産業の特徴を踏まえると、ニッチトップ企業を強化していくことが重要と思われる。
- ・四国地方産業競争力協議会にて「四国産業競争力強化戦略」を策定しており、本計画との連携を図っていきたい。

<四国森林管理局>

- ・四国の2/3は森林であり、その6割は人工林である。それらの人工林は現在、収穫期を迎えており、四国は資源大国といえる。
- ・大型製材工場の開業、木質バイオマス発電所の稼働、CLTの活用など、新たな取組が進められているところである。
- ・木材産業の振興は、過疎化の進む中山間地域の活性化の後押しにもなると考えている。
- ・国土交通省と連携して、治山事業、地すべり事業を推進しており、防災面の強化も進めていきたい。

<中国四国農政局>

- ・「対流」という言葉が出てきているが、中国四国農政局でも「都市農村共生・対流」

に取り組んでいる。

- ・修学旅行生を「子ども交流」として農山漁村に誘致するなどの取り組みも行っており、連携していきたい。

<四国厚生支局>

- ・若者、女性、高齢者が活躍できる四国とあるが、障害者の記述が入っていないので配慮していただきたい。
- ・プライマリーバランスの視点から、社会保障の面でも効率化は避けられず、例えば、人口あたりのベッド数が多ければよいということでもない。今後、地域医療のビジョンと本計画の整合も図られたほうがよいのではないか。

<四国財務局>

- ・遍路は世界的にも有名であり、四国の強みであることから強化すべき。ただし、公共交通だけでは回りにくく、自転車やウルトラトレイルランニングなどのイベントとの連携も考えてみてはいかがか。
- ・今後、地方版総合戦略の策定により、地域間の競争により格差が生じることも予想されることから、四国が一体となった広域プロジェクトが計画通りに進むことが四国圏にとって大事だと思われる。
- ・金融機関へ計画の周知、協力の依頼をしていきたい。
- ・エリアマネジメントを進めており、国、公有財産をつかった防災、減災対策を各部署との連携により進めていきたい。

<四国総合通信局>

- ・課題の解消にICTが寄与できると思われるので、取り組みに関する情報提供、また、取り組みの連携などを図っていきたい。

<四国地方整備局>

- ・「対流」とは、「交流」と違い際立つ個性があるから対流が生まれると認識している。
- ・地方創生でも個性が大事になってくると思う。広域地方計画の中では、四国という圏域で四国のブランドでどういう際立つ個性をまとめるのかがポイント。遍路がまず個性といえるが、それ以外の個性をどれくらい四国圏域で際立つ個性として、四国が一つになって取り組んでいけるものをまとめられるかが大事だ。

<四国経済連合会>

- ・四国新幹線は、地方創生の面、防災の面からも欠かせない。
- ・4県や民間など、政官民で四国新幹線を整備計画にしてほしいと陳情しており、広域地方計画に四国新幹線の記載がないというのは物足りないと思う。

<四国運輸局>

- ・ 広域地方計画の記述内容は、全国計画との整合性を図る必要があり、また、最終的には国土交通大臣による決定がなされるもの。
- ・ 四国における鉄道の高速化に関する要望自体を否定するものではないが、四国新幹線は国土交通省として具体的に議論できるまでには至っていないため、四国圏広域地方計画骨子に記載するのは現時点では適当ではないと判断している。
- ・ 今回、記載については見送る方向で考えていただきたいが、地元からの意見は伝えたい。

<石井国土交通審議官>

- ・ 四国新幹線に対して大変強い意見があるということを確認した。
- ・ 四国新幹線を整備することが目的ではなく、それにより、どうやって地域を発展させていくのかといったビジョンが重要であり、国土形成計画、広域地方計画の中で四国圏をどう発展させるのか、中国圏との連携をどうしていくのかを議論していただきたい。

<北本大臣官房審議官>

- ・ 本日も含め各地方ブロックで出された意見を持ち帰り、今後、省内、関係省庁と調整しながら、全国計画策定を進めて参りたい。
- ・ 対流は、「個性で生じる流れ」「双方向の流れ（地方から都市だけでなく）」「個性と個性のぶつかり合いでイノベーションを生む」といった要素を含んでいる。

<事務局>

- ・ 多くの貴重なご意見いただきありがたい。議事録を起こし、精査をしてから、計画への反映、計画策定を進めて参りたい。
- ・ 今後のスケジュールとして、夏頃に第4回四国圏広域地方計画協議会を開催、中間整理を経て、来年度末には、大臣決定までを予定している。構成員の皆様のご協力をお願いしたい。

以 上